

公益財団法人

静岡市勤労者福祉サービスセンター経営計画書

(平成 31 年度～平成 34 年度)

平成 31 年 4 月策定

## 第1 策定の趣旨

この経営計画書は、「静岡市外郭団体の活用及び連携に係る指針」（平成 29 年 3 月静岡市策定）及び「外郭団体方針書」（平成 30 年 3 月静岡市策定）を踏まえ、「仕事と生活の調和を推し進めるパートナー」として、公益財団法人静岡市勤労者福祉サービスセンター（以下「ジョイブ静岡」という。）がその役割を果たすための基本となる計画を定めるものです。

## 第2 基本理念（ビジョン）

**JOYB（ジョイブ） = JOY（喜び） × JOB（仕事） それは、充実人生**

ジョイブ静岡は、中小企業や個人事業所（以下「中小企業等」という。）で働く勤労者とその家族（以下「中小企業勤労者等」という。）を中心に、広く一般市民にも総合的な福利厚生・共済事業を提供することにより、中小企業勤労者等の活力の増進と市民福祉の向上及び産業の発展に寄与すること目的としています。

また、勤労者の福利厚生の充実、本市定住人口維持の一助ともなるものと考えています。



中小企業等における総合的な福利厚生の実を図るとともに、中小企業勤労者等の福祉向上に資する「仕事と生活の調和を推し進めるパートナー」としての役割を果たすための基本スタンスは、次のとおりです。

### ワークライフバランスを重視する社会ニーズへの的確な対応

会員の満足度を高めるため、要望を細やかにとらえ、事業の柱とするもの、トレンドにそった展開を要するものなどの整理を行い、事業の再編や提携施設等の充実拡大に取り組んでいきます。

また、取り組みの効果を測るため、①会員数と②各種事業の利用件数を成果指標とします。

### 第3 事業面における現状・課題・取組

#### 現状

#### 1 生活の安定及び財産形成に資する事業

生活関連物資の利用補助、斡旋・紹介、各種相談窓口や制度等の情報提供

#### (1) 物資の斡旋等

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	9	13,679	10,901	79.7
H26	11	13,844	13,306	96.1
H27	9	14,226	11,631	81.8
H28	12	15,571	16,247	104.3
H29	11	16,129	15,584	96.6

※利用率 = 各年度の利用件数 ÷ 当該年度末会員数 × 100。以下同じ。

(2) 会報誌による切取式クーポン券

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	9	13,679	19,616	143.4
H26	7	13,844	20,106	145.2
H27	9	14,226	17,326	121.8
H28	6	15,571	20,244	130.0
H29	8	16,129	25,066	155.4

2 健康維持・増進に資する事業

提携施設の割引クーポン配付、スポーツ施設の利用補助、人間ドック・脳ドックに対する受診補助

(1) 温泉等保養施設のチケット斡旋

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	9	13,679	2,177	15.9
H26	10	13,844	1,988	14.4
H27	10	14,226	2,571	18.1
H28	8	15,571	2,023	13.0
H29	7	16,129	2,856	17.7

(2) プール・海の家利用券配付

年度	施設数	会員数	利用件数	利用率
H25	9	13,679	2,315	16.9
H26	10	13,844	1,672	12.1
H27	10	14,226	1,590	11.2
H28	9	15,571	2,111	13.6
H29	11	16,129	2,250	14.0

### (3) 共通割引利用券

年度	施設数	会員数	利用枚数	1人当り 利用枚数
H25	27	13,679	34,682	2.5
H26	28	13,844	33,931	2.5
H27	28	14,226	35,814	2.5
H28	29	15,571	37,068	2.4
H29	32	16,129	37,224	2.3

※1 会員に対し年 18 枚配付。1 人当り利用枚数 = 利用件数 ÷ 当該年度未会員数

## 3 自己啓発及び余暇活動に資する事業

各種教室・講座の委託実施、博物館・美術館等チケットの斡旋、共通割引  
利用券の配付

### (1) 各種教室の実施

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	10	13,679	797	5.8
H26	14	13,844	523	3.8
H27	16	14,226	1,198	8.4
H28	8	15,571	231	1.5
H29	14	16,129	399	2.5

### (2) チケット等の斡旋

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	137	13,679	6,785	49.6
H26	103	13,844	4,856	35.1
H27	91	14,226	8,780	61.7
H28	96	15,571	6,370	40.9
H29	102	16,129	8,846	54.8

### (3) イベントの実施

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	13	13,679	4,894	35.8
H26	7	13,844	4,112	29.7
H27	15	14,226	9,209	64.7
H28	16	15,571	6,231	40.0
H29	18	16,129	6,482	40.2

### (4) 共通割引利用券

年度	施設数	会員数	利用枚数	1人当たり 利用枚数
H25	30	13,679	33,991	2.5
H26	29	13,844	33,505	2.4
H27	30	14,226	34,519	2.4
H28	31	15,571	37,211	2.4
H29	33	16,129	35,265	2.2

## 4 老後生活の安定に資する事業

### 年金セミナーの実施、特定保健用食品等の斡旋

年度	事業数	会員数	利用件数	利用率
H25	4	13,679	104	0.8
H26	5	13,844	148	1.1
H27	2	14,226	6	0.0
H28	3	15,571	374	2.4
H29	5	16,129	209	1.3

※平成27年度はセミナーのみ

## 5 給付等に関する事業

会員への祝い金、見舞金、弔慰金等の給付

### (1) 一般社団法人全国中小企業勤労者福祉サービスセンター提携共済

年度	給付件数	会員数	利用率	給付額 (円)
H25	1,154	13,679	8.4	22,881,000
H26	1,113	13,844	8.0	22,331,000
H27	1,037	14,226	7.3	22,785,000
H28	1,193	15,571	7.7	22,579,000
H29	1,201	16,129	7.4	22,107,500

### (2) ジョイブ静岡独自共済

年度	給付件数	会員数	利用率	給付額 (円)
H25	1,705	13,679	12.5	14,318,835
H26	1,606	13,844	11.6	14,129,000
H27	1,553	14,226	10.9	13,169,000
H28	1,730	15,571	11.1	14,030,000
H29	1,912	16,129	11.9	14,780,000

毎年、実施する事業数や内容に違いがあるため、概括して評価・展望することは困難な面もありますが、どの分野の事業においても一定の需要があります。特に「1 生活の安定及び財産形成」における物資の斡旋や切取式クーポン券事業、「2 健康維持・増進」、「3 自己啓発及び余暇活動」での会員が参加して楽しめるチケットの斡旋やイベント事業に安定した利用があることがうかがえます。

一方、「4 老後生活の安定に資する事業」は利用率のみを見て切り捨てることはできません。

## 課題

1～5の分野にわたるジョイブ静岡の事業に共通する課題は、以下のとおりです。

- (1) 会員ニーズ、時代ニーズの的確な把握
- (2) 会員の期待に応えるサービスの開発と提供
- (3) 提携施設の質・サービス内容の確保とさらなる充実

## 今後の取り組み

上記の課題に対し、

- (1) 利用者アンケートの充実と的確な分析 と、
- (2) 調査結果に基づく事業の整備、提携施設等の充実拡大 に努め、
- (3) **会員満足度の向上** に取り組んでいきます。

## 6 会員数

### 現状・展望

直近5年間の事業所数、会員数の推移は、下表のとおりです。

年度	事業所数	会員数	事業所 増 減	会員増減
H25	2,091	13,679	—	—
H26	2,160	13,844	69	165
H27	2,240	14,226	80	382
H28	2,275	15,571	35	1,345
H29	2,302	16,129	27	558

静岡市内事業所のほとんどは中小企業等であり、そのうちジョイブ静岡に加入している事業所は6%、従業員数に対する会員加入率は5%程度となっています。



(平成 28 年 経済センサス活動調査)

市内事業所 35,194 社 (従業員数 340,623 人) 中、従業員 300 人未満の事業所は 99.29%。

◎ 対象事業所数 = 34,945 事業所

◎ 対象従業員数 = 307,215 人

#### 課題

- (1) ジョイブ静岡を知らない中小企業等に対するアプローチ
- (2) ジョイブ静岡を知っており、加入を検討している中小企業等へのアプローチ
- (3) ジョイブ静岡を知っているが、加入の予定はないとする中小企業等へのアプローチ

(平成 29 年度 静岡市調べ) n = 717 事業所

ジョイブ静岡をよく知らない 58.3%

ジョイブ静岡を知っている 38.4%

ジョイブ静岡を知っている事業所 (n = 275) のうち

ジョイブ静岡に加入している 43.3%

加入を検討している 5.5%

加入の予定がない 45.8%

#### 今後の取組

ジョイブ静岡の認知度を高めるための広報活動の拡大と充実

加入によって中小企業等と中小企業勤労者等が得るメリットをより分かりやすく発信し、また、それをジョイブ静岡と接点のない人々に伝えていく手立てを研究していきます。

## 第4 経営面における現状・課題・取組

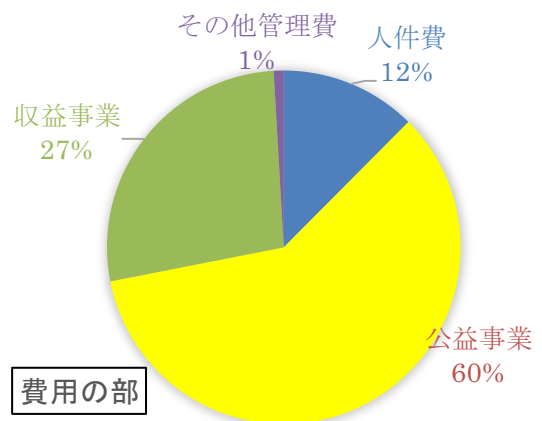
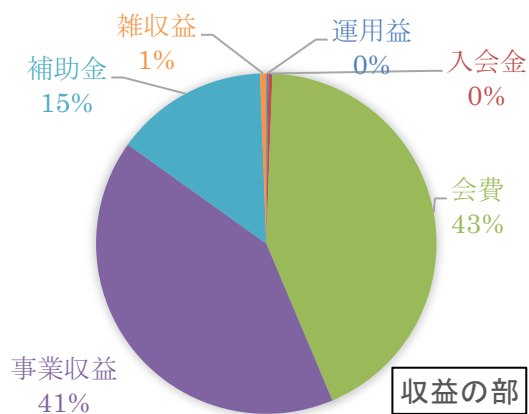
### 1 経営状況

#### 現状

平成29年度の収支状況は、次のとおりです。

(単位：円)

会計		公益目的会計	収益事業等 会計	法人会計	合 計
科目					
収益の部	運用益	547,935	0	0	547,935
	入会金	1,018,500	0	0	1,018,500
	会費	66,404,283	49,894,740	39,777	116,338,800
	事業収益	84,471,520	26,911,587	0	111,383,107
	補助金	32,785,477	0	6,460,523	39,246,000
	雑収益	1,403,666	176,224	0	1,579,890
	合 計	186,631,381	76,982,551	6,500,300	270,114,232
費用の部	人件費	27,019,403	2,429,671	4,046,338	33,495,412
	支払助成金	43,435,905	187,200	0	43,623,105
	給付事業費	0	71,815,040	0	71,815,040
	幹旋事業費	95,571,795	0	0	95,571,795
	その他経費	20,883,221	1,076,592	0	21,959,813
	小 計	159,890,921	73,078,832	0	232,969,753
	その他管理費	0	0	2,453,962	2,453,962
	合 計	186,910,324	75,508,503	6,500,300	268,919,127
収益－費用		△278,943	1,474,048	0	1,195,105



## 展望と課題

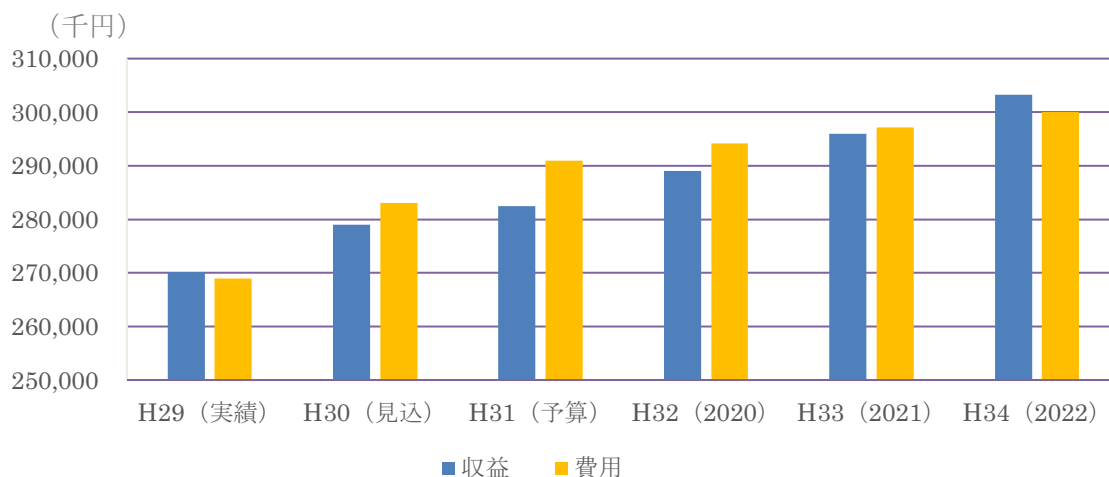
計画期間中の収益と費用の推計は、下表及び下図のとおりです。

会員の増加により会費を中心とした収益は確実に増加しますが、それに見合った支払助成金や給付事業費、幹旋事業費などの費用も増加します。

費用の部の「その他経費」、「その他管理費」を平成31年度予算額のままに抑えることができれば、平成34年度に収益が事業費支出を上回るようになります。

(単位：千円)

年度		H29	H30	H31	H32	H33	H34
科目		(実績)	(見込)	(予算)	(2020)	(2021)	(2022)
収益の部	運用益	547	552	549	549	549	549
	入会金	1,018	1,053	1,200	1,250	1,300	1,350
	会費	116,338	120,556	125,992	131,389	137,206	143,281
	事業収益	111,383	113,793	112,050	113,170	114,302	115,445
	補助金	39,246	41,426	39,382	39,382	39,382	39,382
	雑収益	1,579	1,594	3,238	3,238	3,238	3,238
	合計	270,114	278,975	282,411	288,980	295,978	303,246
費用の部	人件費	33,495	39,036	40,920	41,957	42,658	43,324
	支払助成金	43,623	44,555	46,056	46,517	46,982	47,452
	給付事業費	71,815	74,071	75,009	75,760	76,517	77,282
	幹旋事業費	95,571	96,961	99,126	100,117	101,118	102,129
	その他経費	21,959	25,592	26,827	26,827	26,827	26,827
	その他管理費	2,453	2,859	2,997	2,997	2,997	2,997
	合計	268,919	283,077	290,938	294,177	297,102	300,014



## (1) 人件費

### 現 状

人件費は、費用の 12.5%を占めています。

正規職員で対応しきれない業務が毎通年あるにも関わらず、これまでは静岡市の方針に準じ、昇給のない有期雇用のパートタイマーや臨時職員で対応してきました。

### 課 題

何年たっても正規職員になれない、昇給もない職場は、特に若い世代には、人生設計をするうえで腰を据えて働く環境ではありません。

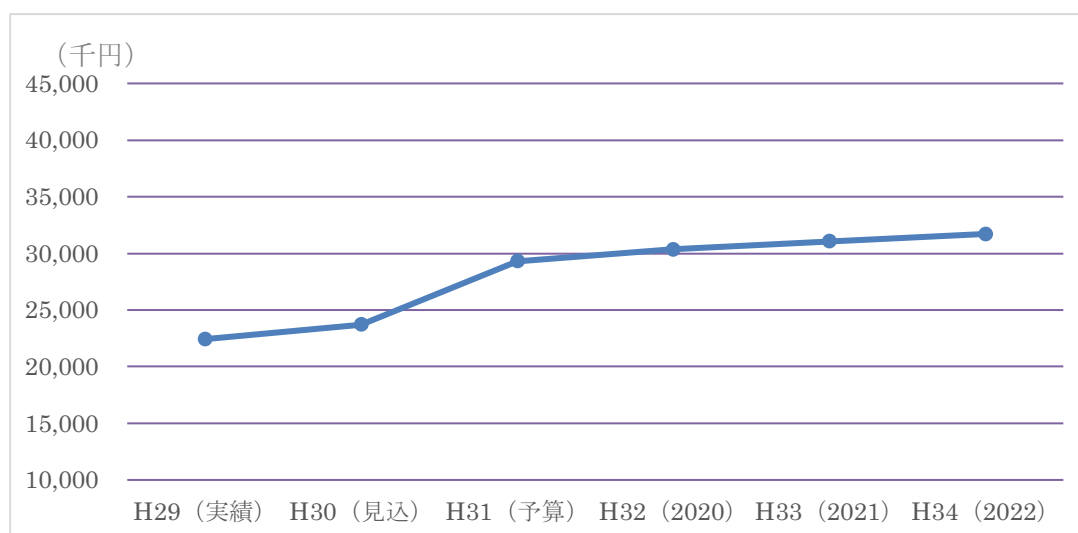
働き方改革による労働諸法の改正に伴い、非正規職員の正規化、処遇改善の取組などを行えば、人件費は、当然に膨らんでいく要素です。

### 今後の取組

従来の非正規に依存したマンパワー活用方法を改め、より働き甲斐があり、働きやすい職場へと人事制度を転換していきます。

近年、働き方改革の流れの中で、特に非正規労働者の処遇改善を目指した労働関係諸法の改正が次々に行われています。有期契約であることを理由とした不合理な労働条件を禁止する「労働契約法」の改正をはじめ、俗にパート労働法と呼ばれる「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」では、通常職員との差別的取扱いの禁止などが謳われており、ジョイブ静岡でもこうした改正の趣旨を踏まえ、何年も昇給もなしに雇用してきたパート職員たちの処遇改善を図っていきます。

平成 31 年度から、有期契約職員に対する差別的処遇を改め、定期昇給や期末手当の支給、非正規職員の正規化などを行った場合の人件費の推移は、次のようになります。



<数値データ>

(単位：千円)

年度 項目	H29 (実績)	H30 (見込)	H31 (予算)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)
人件費	22,432	23,711	29,309	30,347	31,047	31,713

※ 役員報酬は除く。

## (2) 事業費

### 現状

公益財団法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の定めにより、公益目的会計では費用が収益を上回ることが求められ（収支相償）、また、公益目的事業比率を 1/2 以上としなければなりません。

現状は、公益目的会計の費用は、収益を上回り収支相償を満たし、また、事業費率も費用全体の 69.5%を占め、これをクリアしています。

### 課題

公益財団法人として、公益目的事業の 50%以上という比率を維持しながら収支相償を満たし、なおかつ成長を続けていける適切な人事計画、事業計画が重要となります。

### 今後の取組

第2で触れた事業面における課題や今後の取組と同様、魅力ある事業を会

員に提供し、会員を増やし、安定した会費収入を得られるよう努めます。

会員数としては、市内中小企業等勤労者のおよそ1割にあたる30,000人を中長期的な目標としていきます。

## 2 人材的な基盤

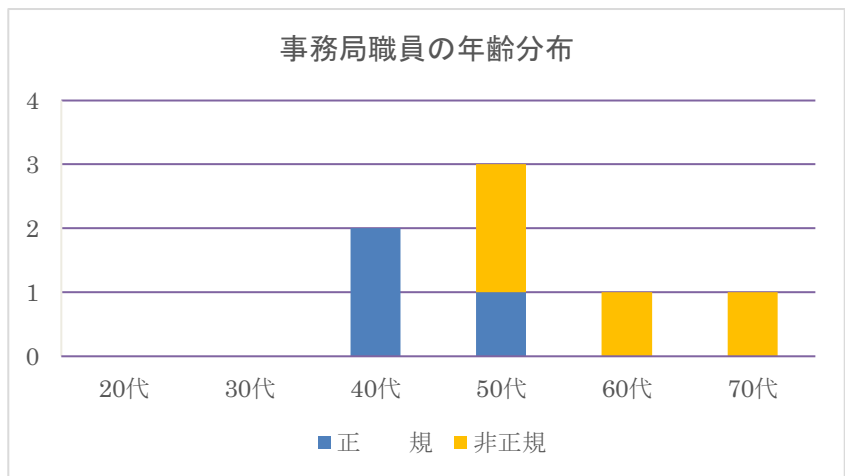
### ア 職員の採用

#### 現 状

右のグラフは、事務局職員の雇用態様別での年齢分布を表したもので、横軸が年齢、縦軸が人数です。

ここ10年ほど正規職員の新規採用は

なく、グラフを一見して分かるとおり、現在のジョイブ静岡には、20代、30代の職員がいません。



#### 課 題

以前から市の外郭団体は、就業規則や給与などは、市に準ずるとしてきました。

正規職員だけではこなしきれない部分は、市の方針に倣い、市と同様のルールにより非正規職員（パートタイマー）を雇用することで対応してきました。

しかし、非正規職員にとっては、何年務めても正規職員となる道が見えず、昇給もありませんので、「ステップアップを望む若い世代はジョイブ静岡に定着しない」という状況を作っています。

#### 今後の取組

従来の非正規に頼るマンパワー活用方法を改め、より働き甲斐があり、働きやすい職場へと人事制度を転換していきます。

### イ 職員の育成

#### 現状と課題

3人の正規職員は、いずれも経験年数は10年前後の範囲に固まっており、後輩職員がいないので、先輩職員が若手を指導育成するような環境にはありません。

組織が小規模のため、人事異動はもちろん、担当業務の変更もほとんどなく、マンネリズムに落ちこむ危険性を孕んでいます。

#### 今後の取組

これから人生を組み立てていく若い世代も希望を持って働ける人事制度を持った職場とし、ジョイブ静岡のナレッジを継承していける環境を整えます。

### ウ 働く意欲を高める人事・給与制度

#### 現状と課題

ジョイブ静岡では、事務局長の職は、歴代、市職員が、また、法人化後は退職者が務めており、職員のプロモートに対するモチベーションは働かない状況にあります。

昇格、昇給といった給与に影響する待遇改善は、将来にわたる人件費負担が伴います。

#### 今後の取組

ジョイブ静岡正規職員の管理職登用が必要ですが、市パートナーとしての

位置を見失わないためには、退職者を含む市関係者が常駐することが望ましいと考えます。また、静岡市からの若年職員出向の可能性についても検討を求めています。

### 3 財政的な基盤

#### 現状と課題

静岡市からの補助金を得て、事業費、管理費の一部を賄っています。自主財源によりこれをすべて補おうとすれば、会員を増やすことで会費収入を上げていく必要がありますが、制限された職員数の中では、業務量の増加を伴う活動に抑制がかかる環境にあります。

#### 今後の取組

会員獲得による財政基盤の安定を図ることはもちろんですが、市パートナーとしてのジョイブ静岡を再評価し、市業務の代行者に対する費用負担の考え方の再考と**ジョイブ静岡の組織的・人的成長を認める政策施策への転換**を求めています。

### 4 組織的な基盤

#### 現状

「評議員会—理事会—理事長—副理事長—事務局長—事務局」という組織で、活動しています。

評議員会、理事会といった非常勤の経営層メンバーについては、平成9年の財団設立時から20年以上が経過し、メンバーの出身母体の人事異動や世代交代などにより、順次、交代・若返っています。

理事長、事務局長のポストは、市退職者の再就職先となっているため、短期間での異動（従来3年）があり、一方、事務局員のレベルでは、ほぼ入れ替わりがありません。



## 課題

事務に携わる事務局員がベテラン揃いのため、安定した事業運営が期待できる反面、職員の絶対数を増やしてこなかったため、現状のマンパワーでこなせる以上の業務には、なかなか手が出せない状況になっています。

加えて、組織、業務を管理監督する理事長、事務局長が業務の十分な理解が進む前に交代時期を迎えることで、こうした課題がなおざりにされてきました。

## 今後の取組

従来のマンパワー活用方法である非正規職員によるごまかしを改め、より働き甲斐があり、働きやすい職場へと人事制度を転換していく必要があります。

その中で、ジョイブ静岡正規職員の管理職登用を行い、継続的な組織管理、事業管理ができる体制を構築していきます。

## 第5 計画期間中の目標

### 1 事業面における目標

取 組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
生活の安定及び財産形成に資する事業						
1	物資の斡旋事業利用件数	15,584	17,800	18,700	19,600	20,500
2	切取式クーポン事業利用件数	25,066	35,600	37,400	39,200	41,000
健康維持増進に資する事業						
1	温泉等保養施設のチケット斡旋利用件数	2,856	3,150	3,310	3,470	3,630
2	プール・海の家利用券利用件数	2,250	2,480	2,610	2,730	2,860
3	共通割引利用券の利用件数	37,224	41,080	43,160	45,230	47,310
自己啓発・余暇活動に資する事業						
1	チケット等の斡旋事業利用件数	8,846	9,760	10,260	10,750	11,240
2	共通割引利用券の利用件数	35,265	38,920	40,890	42,850	44,820

### 2 経営面における目標

取 組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	事業所数	2,302	2,400	2,450	2,500	2,550
2	会員数	16,129	17,800	18,700	19,600	20,500
3	退会理由「利用しない」の事業所数	28	21	14	7	0